

# 史の杜

ふみのもり

# 11

## CONTENTS

- ❖ 古文書のひろば① 江戸時代北東北の獣医学書
- ❖ 古文書のひろば② 『封内土産考』著者・里見藤右衛門の遺書
- ❖ 古文書のひろば③ 古文書から見える上山藩士のお仕事 — 上山藩「御側目付心得」を手がかりに —
- ❖ 調査の現場から 弾丸調査のあとさき
- ❖ 地域との歩みのなかで 須賀川市立博物館との共同調査・展示活動
- ❖ 上廣歴史資料学研究部門 2021年4月～12月

古文書の  
ひろば

1

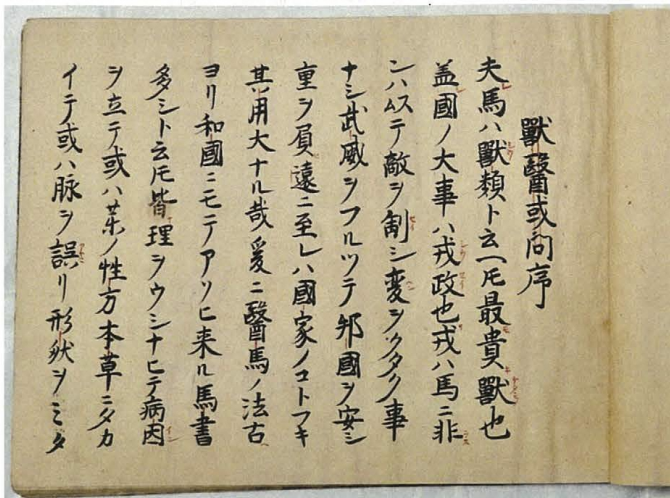
## 江戸時代北東北の獣医学書

### ❖ 獣医学の意義 ❖

人間は有史以前から多種多様な動物を家畜化し、利用してきました。特に、馬は農耕・牧畜・移動・輸送・軍事・儀礼などに幅広く利用され、人間にとって必要不可欠な存在となっていました。結果、馬の飼育・管理に必要な知識も次第に求められるようになりました。とりわけ必要とされていたのは、馬の怪我・病気を治療するために必要な獣医の知識、つまり馬医の知識です。実際、中国・朝鮮には古くから馬医が存在しており、鍼灸・薬物・方剤などの医学の知識を応用して馬の治療にあたっていました。そして、後に馬医の知識は文字化され、馬医書として編纂・刊行されていくことになります。



●【写真1】徒鞍流馬医書の一つ『療治之巻』  
〔南部家旧蔵本【国書分類目録】（南）〕八戸市立図書館所蔵



●【写真2】『獣医或問』（「八戸南部家文書」八戸市立図書館所蔵）

## 馬医書の思想

馬医の知識を欲していたのは日本列島の人びとも同様です。特に、古くから馬産地として知られていた北東北の人びとは馬医の知識を求めていました。例えば、江戸時代、現在の青森県八戸市周辺・岩手県北東部は八戸南部家（表高 20,000 石・柳間席）という大名によって治められていましたが、その領国・八戸藩には約 15,000 ～ 20,000 頭もの馬が飼育・管理されており、比較的多くの人びとが馬医書を所持・精読していました。結果、現在でも八戸市立図書館・八戸市博物館などには様々な馬医書が残されています。とりわけ、理論的な馬医書として注目されるのは『獣医或問』です。同書は、元禄2年（1689）12月1日、徒鞍流という馬術の道統継承者・成田平左衛門吉長（1650～1702）が伝書の一つとして次代の道統継承者・南部遠江守通信（1673～1716）へ書き与えたものです。その内容は題名にある通り、まさに「獣医」（馬医）に必要な知識を問答形式で述べていくものとなっています。紙幅の関係上、内容全てを紹介することはできませんが、差し当たって注目されるのは序文です。編者はこう言います。これまで「獣類」の「性命ヲ救フノ道」は疎かにされてきた。「医ハ仁ノ道」である。「疾病」を癒やせないということ

はないであろう。そこで「初心ノ人」のため、あまねく「馬ノ性命保養」のため、この書を編んだ、と。ここから、人間のみならず馬にまで「仁」を及ぼそうとしていた編者の理念がうかがえます。また、序文の冒頭で「戎（※注：軍）ハ馬ニ非ンハ以テ敵ヲ制シ変ヲクタク事ナシ、武威ヲフルツテ邦国ヲ安シ、重ヲ負、遠ニ至レハ国家ノコトフキ、其用大ナル哉」と述べ、馬の大切さを強調していたことも注目されます。調べていきますと、上記の箇所が朝鮮馬医書『新編集成馬医方』の序文（定宗元年〈1399〉4月）の一部を書き下し、引用したものであったことが判明しましたので、『獣医或問』の編者は朝鮮馬医書の所説を敷衍する形で馬の大切さを説いていたと言えます。さらに、『獣医或問』で引用されている主要な文献を確定していきますと、中国・朝鮮・日本の先行の馬医書のみならず医書からの引用まで確認できましたので、同書は広大かつ多彩な東北アジアの思想世界を背景にして馬の大切さを説いていたとも評価できるでしょう【参考表】。

## 徒鞍流馬医書の読者

徒鞍流馬術は17世紀初頭に小野趙無満長（1589～1652）という人物が高麗流・鹿島流・八条流・大和流・大坪流・悪馬流などの先行の馬術を発展させたものです。八戸南部家では、元禄12年（1699）5月に徒鞍流馬術道統継承者・南部通信が3代目当主となりましたので、それ以降、明治期に至るまで徒鞍流馬術は「御家流馬術」として尊重され続けていました。当然、歴代当主は「御家」のトップとして「御家流馬術」を学ぶ必要がありましたが、より実践的に「御家流馬術」を学び、道統を維持していたのは奈須川家・堀野家・斎藤家などの一部の家臣です。彼らは八戸南部家の馬政全般を統括する「馬別当」という役職に就き、職務の一環として御召馬（当主乗用の馬）・野馬（藩営牧場の馬）の怪我・病気の治療にも関与していましたので、その際に『獣医或問』などの徒鞍流馬医書の知識を活用していたと推察されます。（鈴木淳世）

●【参考表】『獣医或問』の主要な引用文献（孫引・慣用語の引用などは便宜的に除外）

『獣医或問』	出典	編著者	備考	分類
元亨療馬集二…	『元亨療馬集』	中国（明）六安州（現安徽省六安市） 喻本元・喻本亨	成立：嘉靖26年（1547）以降	馬医書
馬医方二日…	『新編集成馬医方』	朝鮮 南陽（現京畿道華城市周辺） 房士良等	序文：定宗元年（1399）04月	馬医書
内経日…	『内経素問』	中国（唐）太僕令王冰	序文：宝応元年（762）	医書
恒徳老人…云…	『医学正伝』	中国（明）花溪（現浙江省金華市） 恒徳老人虞搏	序文：正徳10年（1515）正月	医書
仮名安驥集日…	『仮名安驥集』	日本 若狭国高成寺（現福井県小浜市） 橋本道派	初刊：慶長09年（1604）08月	馬医書
馬経大全日…	『新刻参補針医馬経大全』	日本 国師馬師問	初刊：明暦02年（1656）	馬医書

※『獣医或問』8-3-1-0-51（「八戸南部家文書」八戸市立図書館所蔵）／中村七三『馬医版本の研究 本編』（称徳館、1998年）などを参照して作成。

※『新刻参補針医馬経大全』は『元亨療馬集』を一部改変し、刊行したものであるため、実質的な編著者は喻本元・喻本亨。

※『内経素問』が実際に編纂・刊行されたのは北宋代前期とも言われており、序文自体、偽作された可能性がある。

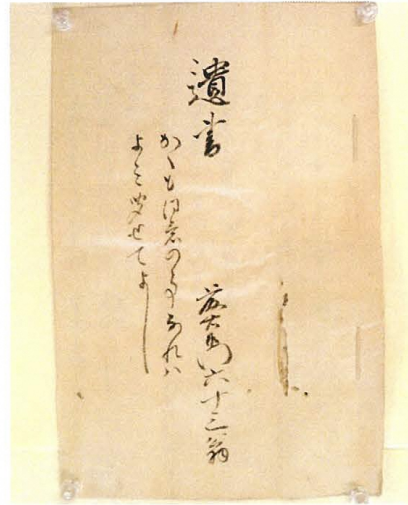
古文書の  
ひろば  
2

## 『封内土産考』著者・里見藤右衛門の遺書

部門で調査を続けている加美町塩沢家文書のなかに、親類にあたる仙台藩士・里見家の史料が伝わっています。18世紀後半に当主であった藤右衛門は、領内の物産を解説した『封内土産考』を著わした人物として知られています。以下では塩沢家文書のなかから、藤右衛門の遺書を取りあげます。

遺書は縦帳になっており、嫡子・兵蔵をはじめとする家族に宛てて、全8カ条で構成されています。ひらがなが多い文面です。1カ条目で藤右衛門は、何を差しおいても大切に心得るべきものは「進退なり」と断言しました。「進退」とは身代のことであり、ここでは財産や地位を意味します。つまり里見家が存続し、仙台藩士として奉公を続け、封禄を得る立場が継承されていくことを何よりも重視していたのです。2カ条目以降では、酒食博奕の禁止、親類との親睦、借金は早く返すこと、人付き合いは律儀に、といった生活上の訓戒が目立ちます。

そのなかでも注目したいのが、蔵書を守るよう求めた3カ条目です（翻刻参照）。これをみると藤右



●【写真】「遺書」表紙  
「藤右衛門六十三翁」と  
年齢の記載がある。  
(加美町塩沢家文書)

衛門の蔵書は、「小兵衛様」（里見家の先祖）が集めたもの、「西岩（磐）井の親様」（実父・相原友直か）の著作、藤右衛門が書き整えたり、購入したりしたものによって構成されていたことがわかります。藤右衛門は蔵書の維持について、将来の当主には書物を好まない者もいるだろうが、虫干しをして大切に保管し子孫に譲るように、と指示しています。さらに、様々なことが記されている書物は「大切な物」であり、粗末にして一冊でも無くしたならば我が心に沿わないものと心得よ、と書き残しました。“仙台は借りたものを返さない所なので（他へ本を）必ず貸してはならない”という最後の一節は、自らの経験を反映した教訓かもしれませぬ。

作成は文化元年（1804）4月末とあり、藤右衛門は文中で自らを「明日をも知れぬ命」「病中」としています。他の史料（不時一季控）によると、藤右衛門が病没したのはこの年の8月だったことがわかります。なお、翻刻文中の「目録」はこれまでの調査では見つかっておらず、遺書作成時における蔵書の全貌を把握することは困難です。ただ、塩沢家文書に含まれる多くの書物のなかには、蔵書印から藤右衛門の蔵書と判明するものがあります。全てとはいえないものの、蔵書の一部は現代まで伝わっているのです。調査が進めば、藤右衛門がどのような書物を読み、何に関心があったのか、ある程度明らかにできる可能性があります。「おかしい事もおもしろい事も皆書物にある」と表現するほど書物に親しんだ藤右衛門がどのような蔵書群を形成していたか、たいへん気になるところです。（藤方博之）

## 【翻刻】「遺書」三カ条目（ふりがなは原文のまま、読点は藤方）

一、小兵衛様集め置せられし書物、雨もりにくちて残りあるを取あつめ、  
其外ハ西岩井の親様の書れし書物、外ハ書と、のへ、或ハ買求な  
として目録の通りあつめたるぞ、此末歴代のうち書物ぶすきの者も  
あるべきなれども、其時ハ虫にくわせぬやうに夏虫ぼしをして大切  
に家にたくわへおき、子孫に遜るへきぞ、唐の事も、日本の事も、  
行義、ふぜひ、人の人たる道のおしへ、家のもちやう、身の持様、  
おかしい事もおもしろい事も皆書物にある事ぞ、大切な物ハ書物と  
心得べし、そまつにして一冊にても無くすときハ我ら心に出合ぬと  
心得よ、仙台ハ借りて返するを知らぬ形のあしき所なれば、必ずか  
すへからす

古文書の  
ひろば

3

## 古文書から見える上山藩士のお仕事

— 上山藩「御側目付心得」を手がかりに —

筆者は現在、近世城郭型の外観を持つ郷土資料館「上市市立上山城」に勤務しています。そういった名称・外観を持つ施設ゆえか、訪れるお客さまは武士に対し興味をお持ちの方が多く、「上山の武士は普段どんな生活をしていたの？」という質問をよく受けます。

今から10年ほど前の着任当初、それまで武士のくらしについて無関心だった自分は、その質問に全く答えられず、お客さまにたいへん不愉快な思いをさせてしまいました。

以来、その分野に関する古文書の調査・搜索に腐心していたところ、数年前、その疑問の一端を解明する一冊の古文書「御側目付心得」（以下、「心得」）に出会いました。この「心得」は、元禄10年（1692）から明治4年（1871）の廃藩置県に至るま

で上山藩主の地位にあった藤井松平家の家臣が所持していたものと伝わっています。文書の作成時期は江戸時代後期と推測され、その表題にある「御側目付」とは、上山藩主一族の住居兼藩の役所である「御館」において、藩主の側に仕え多様な職務にあたる「世話係」のような役目で、藩内での立場は中の上のあたりに位置しています。

そして、この「心得」には同役の藩士が仕事上において守るべき規則が記されています。以下、「心得」中の規則をいくつか提示しつつ、上山藩士の普段の「仕事ぶり」をご紹介します。なお、これから提示する「心得」中の原文（一部抜粋）については、旧字を新字に改め、かつ、読点を附すなど一部変更を加えています。

## 【規則①】勤務時の身だしなみについて

【原文】御側勤候者之儀ハ平常 御前向へ罷出候義故、御通ひ其外不依何事立廻り不都東ニ無之風義一統ニ相揃、思々の風俗ニ無之（中略）髪之風等迄も申合、異様ニ不相成様ニ心を付可申候、尤月代等も不見苦様ニ剃可申候、若不快之節は相願候而、押而長髪ニ而相勤候儀ハ其時ニより御用捨可有之

【訳】藩主の御側で仕える者の服装は、各自の判断ではなく、皆で示し合わせ、藩主の失礼にならない、かつ、同じような水準のものに揃えなさい。また、髪型は頭頂部をきれいに剃り上げた「月代」が基本だが、何か不都合な点がある場合は「長髪」（頭頂部を剃らずに髪を後方で束ねる「総髪」か）も認める。

この規則の補足として、江戸時代末期、上山藩では、冬場、頭頂部の冷えに困っていると訴えてきた藩士に対し、「月代」から「総髪」への髪型変更許

可状が発行されている事例が、別の史料から確認されています。

## 【規則②】藩主の不用品の処分方法について

【原文】上向御書物類又は御手御身ニふれさせられ候品は仮初ニも塵末ニ不致、不御用立候節ハ火中致候か又ハ御塵籠ニ入置不浄無之場所へ理させ候之儀心を附可申候事

【訳】藩主の書物や、その他お手に触れた品々は粗末に扱わず、さらに、処分する際は焼却するか、または、専用の塵籠に入れて不浄ではない場所に埋めるようにしなさい。

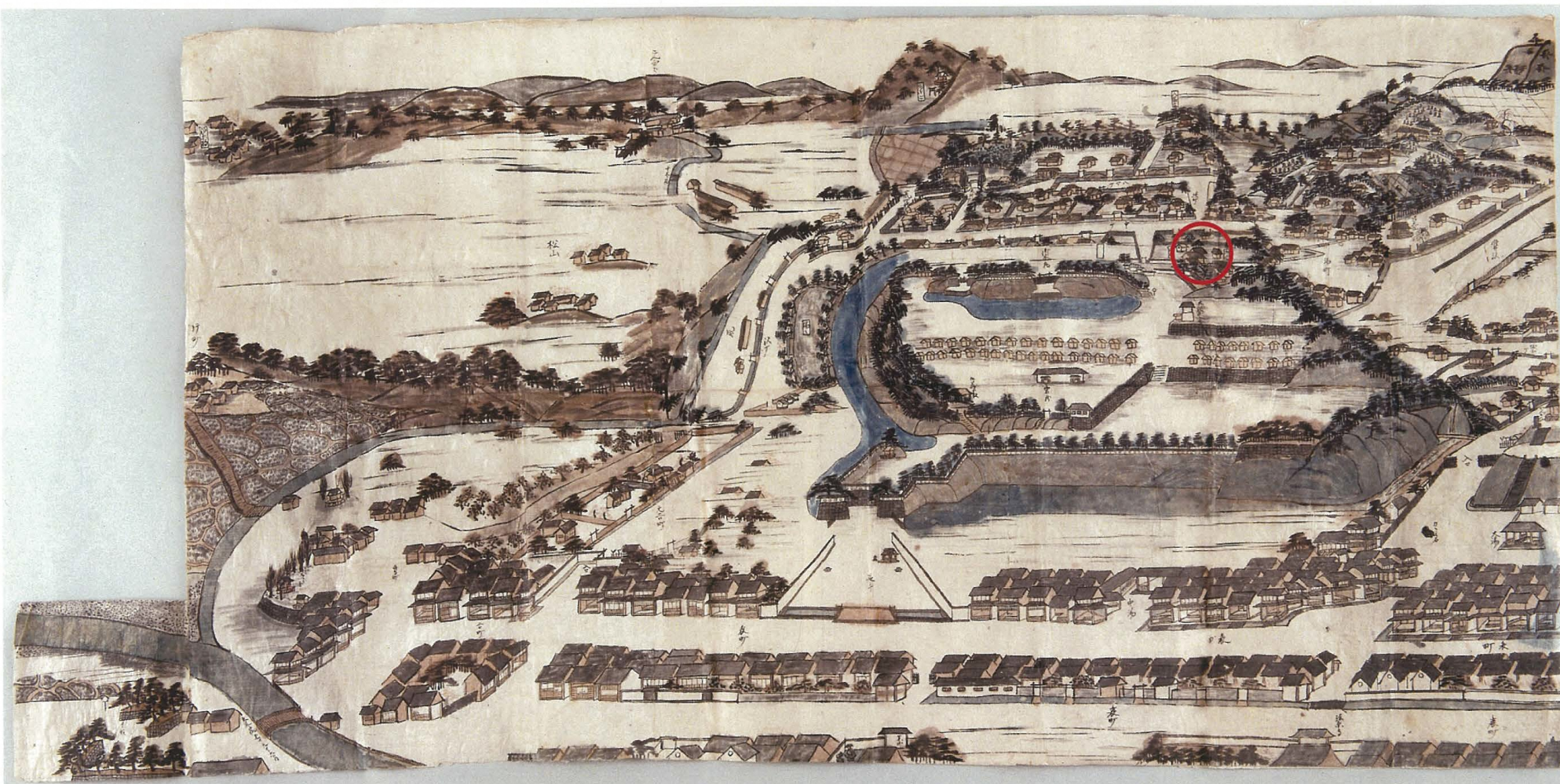
## 【規則③】勤務時間について

【原文】御側目付、平日朝四時五分罷出九時半ニ引、夕七時半ニ罷出暮六時頃見合御用無之候ハ、引取可申候、尤不時ニも御用有之候えば少々之儀にても何ヶ度と申事無之罷出可申事

【訳】御側目付は午前10時に藩の役所に出勤し、午後一時まで働き一旦帰宅。そして、午後五時に再び出勤し、午後六時頃になってやるべき仕事があれば、本日の業務は終了し帰宅すること。ただし、非常時の場合はいつ何時であっても出勤すること。

この他にも「心得」には、藩の役所で働く女中さんとの接し方、休暇の取り方、藩主の御前での藩士同士の呼び合い方等々、職務にかかわる事細かな規則が記されています。今回は紙数の都合上叶いませんでしたが、別の機会にご紹介できればと思いますし、また、どうしても知りたい、読みたいという方は上山城まで御一報願います。

（公益財団法人上山城郷土資料館 長南伸治）



●【写真1】江戸時代後期の上山城下絵図「上山家中町絵図面」（上山城収蔵史料）。赤線で囲んだ建物が、上山藩「御側目付」達の職場「御館」だと思われる。



●【写真2】写真右側の池は上山城本丸西側の御堀跡、正面奥は「御館」跡地（現・上市市立上山小学校）。



# 調査の現場から

## ■ 弾丸調査のあとさき ■

私はカナダの大学の院生として、江戸期の女子往来物を研究しています。前職が貴重書の図書館司書であったこともあり、原史料を直接調査することに強い拘りをもっています。ここでは2019年12月に行った日本での2週間の調査と、直後に起きたコロナ禍での経験をお話します。

海外の学生がこの実地調査するためには、次の3つのハードルを超えなければなりません。

1. 二次資料不足：調査対象は特別文庫所蔵の版本・写本が中心です。そのため冊子体目録に目を通し文庫全体の構成や所蔵本を事前に理解することは必須です。が、残念ながら、典型的な商業出版から外れる目録・解題等を北米で入手することは容易ではありません。幸い岡山大学池田家文庫の目録を入手ことができ、ADEAC や小泉吉永氏著の解題といったオンラインツールで事前調査が可能な広島の三次市立図書館往来本コレクションと共に、二館の調査が実現しました。



●【写真1】「女文章四季詞鑑」(三次市立図書館所蔵)

2. 資金獲得：先進国日本では滞在費用が嵩みます。今回の調査も Tanaka Fund Program という奨学金の獲得によって実現しました。

3. 時間との闘い：限られた時間を最大限有効に使うべく、調査先の開館日・時間、国内の移動時間、夜行バス等の手段を予め調べ綿密に計画を立てました。「弾丸調査」のゆえんはここにあります。集中



●【写真2】ジャパン・レール・パス  
(外国人向け特別乗車券)

力保持のため敢えて休日を間に設け、調査済み史料の整理や文庫を育んだ地元の散策にあてました。滞在中、体調万全を期すため睡眠、栄養、手洗い、うがい、運動を心掛けましたが、これがその後間もなく勃発したパンデミックへの準備練習となるとは夢にも思いませんでした。

日本でも多くの方々の研究が、コロナ禍の影響を受けたのではないのでしょうか。私も2020年3月からの大学閉鎖により、上述史料の分析に影響ができました。そこでこの研究はひとまず置いて、学科の院生としてすべき課題と、研究アシスタントの仕事に集中することにしました。アシスタント業務では、オンラインで横浜の遊郭に関する幕末から明治初期の版本と錦絵約40点を収集・翻刻をしたのですが、海外からでもある程度調査・研究が可能なことを証明する良い経験でした。オンラインによる成果は、渡航が正常化した後の実地調査の下準備も意味します。今回の弾丸調査同様、この研究に関しても、日本でどんな史料・人と出会うことができるのかが今から楽しみです。

フィルムカメラと三脚を片手に調査された先輩方を思うと、困難の中でも遠隔調査ができる現代の環境に感謝しています。そんな時、デジタルがもたらす大量のデータを正確かつ効率よく分析し、それに続く実地調査に生かし、その成果を「現地語」で説明していくという我々の役割を改めて実感するので

す。  
(ブリティッシュコロンビア大学アジア研究学科博士後期課程 鈴木紗江子)



## 須賀川市立博物館との 共同調査・展示活動

部門では、おもに宮城・山形・福島の三県において地域に伝来する古文書などの歴史資料を、地域の人々と連携して保全する活動を行い、その調査成果を歴史講座・展示・刊行物などによって社会に発信しています。ここでは福島県の須賀川市立博物館との共同調査、展示活動について紹介します。

### 共同調査

同館での古文書調査は 2019 年から開始し、これまで 5 つの家文書（佐藤家、小針家、桑名家、廣田家、安藤家）の再整理を共同で進めてきました。古文書を中性紙封筒におさめ、デジタルカメラで撮影し、目録を作成します。同館との調査は、私たちが博物館を訪れて行うスタイルをとり、学芸員と一緒に撮影作業までを進めています。また、2020 年 3 月には大学院生など若手研究者と 3 日間の集中調査に取り組みました。近年、現地調査の機会が少なくなっている若手研究者が調査のノウハウを習得する場をつくることができました。

私たちの調査は、文書所蔵者との再交流のきっかけともなっています。同館収蔵文書には寄託文書があり、調査を完了した文書は所蔵者へ返却、あるいは寄託の継続、博物館へ寄贈となる場合もあります。多くの自治体では自治体史編纂にともない文書の悉皆調査を実施しています

## 地域との歩みのなかで

が、その後、平成の大合併などの影響もあって収集文書の管理が混乱している場合も少なくありません。各家にて大切に伝えられてきた歴史資料ですので、所有関係を明確化しておくことも、今後の保存・活用にとって重要な点です。

### 展示活動

そしてこの調査内容を発信する機会となっているのが、共催で実施している同館テーマ展です。これまで歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点の後援、博物館友の会、須賀川古文書研究会の協力を得て、「古文書からみた須賀川市域の江戸時代・村のくらし」「古文書からみた災害と須賀川」（写真 1、2）と 2 度開催しました。私たちは解説パネルやパンフレット（「別冊史の杜」）を作成し、また会期中の歴史講座を通じて、わかりやすく伝えることを意識しています。一方で原資料を展示する場が博物館ですので、学芸員と協力することで、博物館展示としてよりよい内容となるよう心がけています。作成した解説パネルは、博物館で自由に活用いただいております。今年度は市内の支所（市民サービスセンター）で出張パネル展示が開催されました。

ここまで述べてきた調査・展示活動は、いうまでもなく同館をはじめとする地域の理解があってはじめて可能となるものです。私たちの目標である「地域と歩む歴史学へ」というテーマのもと、引き続き同館との共同調査を続けていきます。（野本禎司）



●【写真1】令和3年度テーマ展「古文書からみた災害と須賀川」  
展示風景

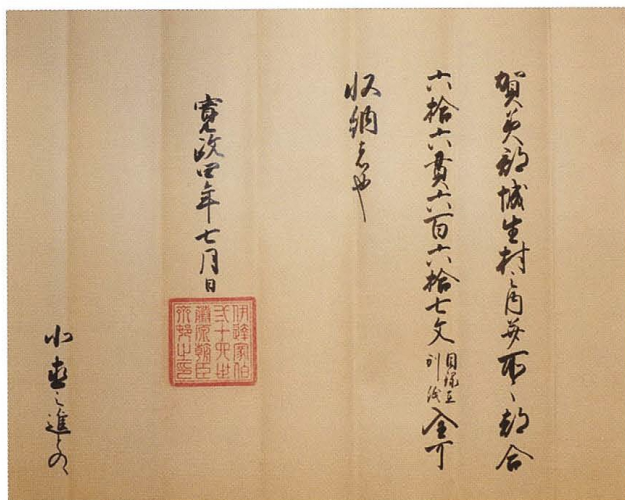


●【写真2】令和3年度テーマ展「古文書からみた災害と須賀川」  
学芸員による小学生への展示解説

# 上廣歴史資料学研究部門 2021年4月～12月

## 古文書目録作成・撮影作業

大河原町佐藤医院文書、大河原町鈴木弥五右衛門家文書、大河原町高忠文書、大河原町竹川家文書、大河原町原田氏寄贈文書、大河原町渡辺家文書、加美町北家文書、加美町塩沢家文書、白石市米竹家文書、白石市渡辺家文書、山元町歴史民俗資料館所蔵資料(以上宮城県)、朝日町鈴木清助家文書(山形県)、須賀川市安藤家文書、須賀川市桑名家文書、須賀川市小針家文書、須賀川市廣田家文書、須賀川市矢部孝雄家文書(以上福島県)



●知行宛行状(加美町北家文書、加美町教育委員会所蔵)

## 古文書・歴史講座

- 岩出山古文書を読む会・岩出山教室(協力:部門、毎月2回、於大崎市岩出山地区公民館)
- 片平古文書会(協力:部門、毎月2回、於仙台市片平市民センター)
- 川北古文書学習会(主催:部門、学期中毎週木曜、於東北アジア研究センター)
- 白石古文書サークル(協力:部門、毎月1回、於白石市中央公民館)
- 仙台藩宿老後藤家文書研究会(協力:部門、毎月1回、於美里町農村環境改善センター)

## 展示会

- 須賀川市立博物館令和3年度テーマ展「古文書からみた災害と須賀川」(主催:須賀川市立博物館・部門、後援:歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大学拠点、協力:須賀川市立博物館友の会・須賀川古文書研究会、2021年7月24日～9月5日)
- 上廣歴史資料学研究部門創設10周年記念パネル展示「地域の歴史を未来へ」(主催:部門、2021年9月1日～29日、於仙台市営地下鉄東西線国際センター駅)

## 講演会・セミナー

- 令和3年度博物館講座第1回 藤方博之「山形藩主・堀田家の家臣団―県外に残る史料から接近する―」(主催:会場:山形県立博物館、協力:部門、2021年6月12日)



●山形県立博物館での講演

- 東北アジア研究センター創設25周年国際シンポジウム「変容する環境のダイナミズム」セッションB1「近世日本における知識人と社会思想」(主催:東北大学東北アジア研究センター、2021年6月27日、オンライン)
- 須賀川市立博物館令和3年度テーマ展講演会「古文書からわかる須賀川の歴史」 野本禎司「水とともに生きる百姓と村―堀込村・廣田家文書を中心に―」(主催:須賀川市立博物館・部門、2021年8月7日)
- 大崎市誕生15周年・上廣歴史資料学研究部門創設10周年記念講演会「江戸時代の始まりと幕末・維新の岩出山」①遠藤ゆり子「戦国時代から江戸時代初期の岩出山」②荒武賢一朗「戊辰戦争直後の岩出山―武士たちの足跡―」(主催:大崎市教育委員会・部門、2021年11月27日、於大崎市岩出山文化会館)

## 出版

- 荒武賢一朗、阿部さやか編「近代地域新聞からみた社会の実像―宮城県・白石実業新報を読む―」(東北アジア研究センター叢書第69号、2021年11月10日)

## オンライン・ジャーナル『歴史資料学』第1巻

- 高橋章則「講演録:大崎の町人文化―狂歌を中心に―」
- 高橋守克「近世・近代の御釜神社―発掘調査と絵図等の検討を通して―」